

想定するリスク等への主な意見に対する県市の考え方

※「第1回 愛知・名古屋地域強靱化有識者懇談会」（8月24日）及び「第1回 愛知・名古屋地域強靱化計画検討会議」（9月3日）における意見と対応を示したものの

(1) 対象リスクの追加、規模等について

意見の内容	対応の考え方
<p>○地震・津波については想定する対象が南海トラフ巨大地震と明確であったが、風水害や土砂災害の場合は最悪の事態をイメージしにくい。強靱化としてどこまで対象とするのかを考える必要がある。</p> <p>○風水害の強靱化として、今は東海豪雨と伊勢湾台風を基本にしているが、南海トラフ地震の頻度レベルとは違いがある。</p> <p>○降雨は、内水はん濫であれば時間雨量が検討の対象となり、大規模河川であれば日雨量あるいはそれより長期の雨量を考えることになるが、時間スケールを含めてどのような外力を想定するのかを整理する必要がある。土砂災害になれば、また時間スケールも変わってくる。</p>	<p>国土強靱化基本計画においては、大規模自然災害全般を想定するリスクとして位置付けておりますが、それらのリスクの規模等を特定せずに、脆弱性評価や施策の推進方針を検討しております。県市の地域強靱化計画においても、国の基本計画における考え方に準じておりますが、地震・津波、高潮のように、被害想定等によって具体的な被害の様相が示されている災害については、こうした被害想定も参考にしています。（別紙「各被害想定等におけるハザードレベルの考え方」参照）また、具体的な被害想定等がない災害については、具体的な被害の様相をイメージすることが重要であることから、過去の災害事例を参考にしたいと考えております。</p>
<p>○風水害を強靱化に入れる時、それが単独で起きると想定するのか、大規模地震の前後に起きる複合災害として考えるのか検討してほしい。</p> <p>○津波と洪水、あるいは高潮と洪水といった複合災害も扱うのか、検討してほしい。</p>	<p>既存の被害想定では、地震や風水害を単独災害として取り扱っておりますが、単独災害・複合災害、局所的・瞬時的な災害など、大規模自然災害がどのような形で発生した場合でも、「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」を回避するため、脆弱性評価や施策の推進方針等を検討しております。</p>
<p>○火山については、経済活動やネットワークの遮断ということを考えれば、距離的に離れていても影響が出てくるので、どの地域に影響が大きくなるのかも考えなければならない。</p> <p>○遠方の火山噴火による噴煙の影響についても考える必要がある。</p> <p>○台風は「風台風」、「雨台風」と区分されるように、風の影響についての検討が必要。</p> <p>○竜巻など局所的な災害をどう捉えるのか。また、都市的な集中ということで、雷による情報機器への影響をどう考えるか。さらに、都市部での積雪は、規模は小さくても大きな交通被害を起こし、都市の脆弱性を表すものである。</p> <p>○物流の事業者として懸念しているのは、風水害よりも雪である。除雪体制について取り組んでいただき、物流が止まらないような対策を進めてほしい。</p>	<p>「火山噴火」については、愛知県においては「想定するリスク」として設定しており、生活用水や工業用水等への影響のみならず、火山噴出物による空港運用におけるリスクなども考慮しております。また、富士山が噴火した場合には風向きの影響により首都圏等に大きな被害が発生することが想定されることから、中部圏への影響も含めて検討しております。</p> <p>「竜巻などの突風」や「雷」については、「想定するリスク」として設定している「豪雨・台風（洪水・高潮等）」の中で読み込むこととし、各リスクシナリオに対する脆弱性評価や施策の推進方針を検討しております。</p> <p>「大雪」については、愛知県においては「想定するリスク」として設定しておりますが、名古屋市では過去の降雪状況や影響の深刻度を勘案して対象としていません。</p>
<p>○人為的な災害、例えば、名古屋港周辺の工場で起きた火災などを考えてみるのもよい。老朽化に伴う様々な事故の可能性が高まっていることから、自然災害以外のものも含めて考えていただきたい。</p> <p>○電力自由化に伴って、大規模停電が大きな懸念としてある。大規模停電が発生した時、素因としての災害とは関係なく、万が一の対策について検討してほしい。</p>	<p>国土強靱化基本計画において、当面は大規模自然災害を想定するリスクとしており、県市の地域強靱化計画においても同様に大規模自然災害を想定したいと考えております。</p> <p>また、基本計画と同様に、リスクシナリオの6-1として「電力供給ネットワーク（発電所、送配電設備）や石油・LP ガスサプライチェーンの機能停止」を設定するとともに、施策分野に「エネルギー」（個別施策分野）や「老朽化対策」（横断的分野）を設定しており、リスクシナリオごと、施策分野ごとに脆弱性評価や施策の推進方針を検討しております。</p>

(2) リスクシナリオの修正等について

意見の内容	対応の考え方
<p>○「起きてはならない最悪の事態」の 1-4 は「…市街地等の浸水」の後に「による死者の発生」といった文言を追加すべきではないか。</p>	<p>愛知県の計画においては、ご意見を踏まえ、1-4「大規模地震や異常気象等による広域かつ長期的な市街地等の浸水」を「大規模地震や異常気象等による広域かつ長期的な市街地等の浸水での多数の死傷者の発生」に修正します。</p>
<p>○1-3 と 1-4 で「広域」や「広域かつ長期的」とあるが、水害の中には地下街等で起こる瞬発的・突発的なものと、台風のような大規模なものがあると思うので、2つに分けてはどうか。</p>	<p>想定するリスクとしては台風や豪雨（局地的、集中的な大雨を含む）を考慮しており、瞬発的・突発的な事象についても、各リスクシナリオに対する脆弱性評価や施策の推進方針において検討しております。</p>
<p>○リスクシナリオの中で、防災リスクと減災リスクが一緒になっている。ハードの施設整備で防げるリスクと、それでは防げないリスクについて、整理すべきではないか。</p>	<p>国土強靱化基本計画の中においては各リスクシナリオへの対策について、「重点化を図りつつ、ハード整備とソフト対策の適切な組み合わせが必要」としております。各リスクシナリオへの対応については、防災リスク・減災リスクを考慮し、ハード対策とソフト対策を組み合わせ検討しております。</p>
<p>○1868 年に入鹿池が決壊しており、ため池は地震や大雨のどちらでも起こる可能性があるが、こうしたことをきちんと考えてはどうか。 ○ため池の決壊や山地崩壊による天然ダムなどの問題もあることを考えてほしい。</p>	<p>リスクシナリオ 7-4 として、「排水機場等の防災施設、ため池、ダム等の損壊・機能不全による二次災害の発生」を設定しております。当該リスクシナリオが、地震や豪雨により発生することを考慮して、脆弱性評価や施策の推進方針を検討しております。</p>
<p>○雨の降り方で土砂の出方は違って来る。また、終戦後、裸地が多く植生回復しつつあった時は雨が地面にしみ込んで抜ける「表面浸食」が多かったが、最近は「深層崩壊」や「表層崩壊」が多くなってきているので、このことを留意してほしい。 ○高頻度で局所的な土砂災害をどう取り扱うのか、整理が必要である。</p>	<p>リスクシナリオ 1-5 として「大規模な土砂災害（深層崩壊）等による多数の死傷者の発生のみならず、後年度にわたり国土の脆弱性が高まる事態」を設定しており、脆弱性評価や施策の推進方針の検討の中で考慮しております。</p>
<p>○障害者としては災害発生後の避難生活が問題となる。障害者の保護をどうするか項目を追加してほしい。 ○避難所のほか、避難経路についても留意が必要である。</p>	<p>リスクシナリオの 1-6 として「情報伝達の不備等による避難行動の遅れ等で多数の死者の発生」、6-5 として「避難所の機能不足等により避難者の生活に支障が出る事態」を、「施策分野」（個別施策分野）として「保健医療・福祉」を設定しており、障害者の避難や避難所での生活についても脆弱性評価や施策の推進方針の検討の中で考慮しております。</p>

各被害想定等におけるハザードレベルの考え方

南海トラフ地震 に関する被害想定 (愛知県、名古屋市)	南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで過去に実際に発生したものを参考に想定	100~200年程度の間隔での発生頻度
	主として「命を守る」という観点で、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定	1,000年に1回、あるいはそれよりももっと低い発生頻度
洪水浸水想定 (国土交通省、愛知県)	国土交通省及び愛知県が公表する河川ごとの浸水想定区域(24時間総雨量:244mm~475mm) ※「名古屋市洪水ハザードマップ」も同様	30~200年に1回程度の大雨
	(H27.5水防法改正への対応)	(想定最大規模の降雨を前提)
内水浸水想定	各市町村においては、対象となる排水区の特성에応じて設定(『国土交通省内水ハザードマップ作成の手引き』に基づく)	○対象降雨の設定例 対象とする地域の既往最大降雨、他地域での大規模な降雨、洪水ハザードマップの対象降雨
	【名古屋市内水ハザードマップ】 平成12年東海豪雨降雨(1時間最大97mm、24時間最大534.5mm)が名古屋市全域に降った場合	1時間雨量で100年に1回、 24時間雨量で200年以上に1回程度の大雨 ※
	(H27.5水防法改正への対応)	(想定最大規模の降雨を前提)
高潮浸水想定 (愛知県)	室戸台風(1934年)が、県内沿岸部に対し最も高潮の影響を与える最悪のコースを通過した場合	想定最大規模(日本上陸既往最大規模)
	(H27.5水防法改正への対応)	(想定最大規模の高潮を前提)

※「愛知県の確率降雨」(愛知県ホームページ)における名古屋地区の確率雨量を参照